

◆大会企画委員会の活動報告

大会企画 委員長 和田 光平

日本人口学会は、第70回大会を2018年6月2日(土)、6月3日(日)の2日間、千葉県浦安市の明海大学において開催いたします。会員の皆様はもちろん、人口にご関心のある研究者や学生の非会員の皆様にも積極的にご参加いただければ幸いです。

シンポジウムと各セッションは下記の通りです(セッション番号は、プログラム編成上、変更する可能性があります。)また、6月3日(土)の午後に公開シンポジウム「生きることと幸せ」が開催されます。また、ここ数年継続して設定されている英語による企画セッションも予定されています。テーマセッションでは報告が公募されますので、自由論題と同様に積極的にご応募ください。会員総会、懇親会は6月3日(土)の予定です。

なお、実効性のある情報提供を図るため、要旨等の報告内容の情報はずべてWebメディア(学会メーリングリスト、ホームページなど)を通じて閲覧ならびにダウンロードできるようにします。

シンポジウム 生きることと幸せ(組織者:影山 純二)

テーマセッション1 地域研究の視点からみた人口(組織者:三澤 健宏)

テーマセッション2 国勢調査の不詳問題を考える(組織者:阿部 隆)

企画セッション1 墮胎と嬰兒殺しの人口学 Demography of induced abortion and infanticide(組織者:小西 祥子)

企画セッション2 生物学、疫学に見る数理人口学の応用と発展:人口学における数学的視点(組織者:大泉 嶺)

企画セッション3 人口・世帯の将来推計-方法論・推計結果とその考え方-(組織者:石井 太)

企画セッション4 若年層の経済的自立と家族形成に関する日韓比較(組織者:菅 桂太)

企画セッション5 Family Strategy vs. Child Welfare: Comparative Studies of Adoption Using Micro-Level Data from the 18th to 20th Centuries(組織者:黒須 里美)

企画セッション6 健康寿命についての包括的討論(組織者:中澤 港)

企画セッション7 少子化対策の実効性について計量的・歴史的視点から評価する(組織者:池 周一郎)

◆国際委員会の活動報告

国際委員会委員長 永瀬 伸子

国際委員会では、第69回大会(2017年6月11日)において、ハーバード大学メアリ・ブリントン教授、ウィネペッグ大学Xiao Yuan Dong教授をお招きし、永瀬伸子会員、水落正明会員を報告者に加えて企画セッション「東アジアの少子化と女性の就業」(組織者:永瀬伸子)を実施しました。司会は小島宏会員、討論者は鈴木透会員、上村泰弘名古屋大学教授がつとめました。セッションでは英語による報告と質疑が行われ、学会の国際化を進めることができましたと思います。なお、招聘は「東アジアの少子化、配偶者マッチング機構と労働市場」(科研費基盤研究C15K03503代表者永瀬伸子)によって行われました。

◆研究企画委員会の活動報告

研究企画委員長 石井 太

研究企画委員会では、将来人口推計の科学性に関する調査研究を委員会が中心となって行い、2017年10月に「将来人口推計の科学性について」報告書として取りまとめ、学会HPに掲載しました(<http://www.paoj.org/hiroba/population-projection-report.pdf>)。

この報告書は、国連欧州経済委員会(UNECE)のタスクフォースが準備した「将来人口推計の公表に関する勧告」のドラフトをレビューするとともに、わが国における状況について全国推計を対象として概観し、将来人口推計の科学性に関する本学会としての課題について取りまとめたものです。今後、将来人口推計について本学会で議論を行う際などに、本報告書をご活用頂ければと存じます。

◆編集委員会の活動報告

編集委員長 林 玲子

『人口学研究』第53号は冊子体で皆様のお手元に届いていることと思います。この最新号までのJ-STAGE掲載も完了し、DOIも付与されました。第53号の論文は冊子版に同封したパスワードを使って2018年3月まで会員のみ閲覧することが可能です。その後2018年4月からはフルオープンとなります。また2018年9月に刊行を予定している第54号からは、冊子版が出版された時点で、パスワードをかけずにフルオープンでJ-STAGEにPDFを掲載し、査読を経て受理され校了した原稿は、執筆者の希望があればJ-STAGEにPDFを早期公開(フルオープン)することになりました。会員の皆様の論文が、これまでよりも早く、多くの人に読んでいただけることとなりました。皆様のご投稿をお待ちしております。

◆関西地域部会の活動報告

関西地域部会長 川口 洋

日本人口学会関西地域部会・2017年度研究会開催のお知らせ

川口 洋・中澤 港・平井晶子

1. 日時:2018年3月17日(土)10:00-17:00
2. 会場:大阪大学文学部大会議室(豊中キャンパス、文法経本館2階北西角)http://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/files/accessmap_20131226.pdf
3. 会場校の担当者:堤 研二(大阪大学)
4. 共催:麗澤大学・歴史人口学セミナー、総合地球環境学研究所・村山FS "Living Spaces Project"
5. テーマ:人口現象の空間分析

(次ページに続く)

6. 趣旨: 今期の研究課題として, (1) 人口学方法論の再検討, (2) 人口学からみた過去・現在・未来を掲げた。人口学の成果と課題が『人口大事典』で展望されてから10年以上が経過した。この間, 隣接諸科学も著しい発展を遂げ, 日本周辺の社会・経済的状况も一変した。隣接分野で深化した研究方法の理解に努め, 人口学の方法論を見直す時期が来た。一方, 人文・社会科学が新たな視座を打ち出すことのできない要因の一つとして, 専門分化した研究課題の精緻な資料分析に力を尽くし, 歴史的变化のなかで日常生活の全体像を総合的に叙述する方向を目指していない研究動向が指摘できる。過去・現在の人口変動を総合的にとらえ, 人口変動が生じた要因を時間軸と空間軸のなかに位置づけ, 将来予測につなげることが, 人口学の重要な役割とみられる。

2017年度研究会では, 研究課題(1)に掲げた研究課題の理解を深めるために, 人口現象を空間分析した研究成果を報告していただき討論する。

7. プログラム

開会の挨拶(10:00-10:10)川口 洋(帝塚山大学)

第1報告(10:10-11:00, 司会: 平井晶子(神戸大学))

高島正憲(東京大学): 8-19世紀における日本列島の長期の都市化と経済成長

第2報告(11:00-11:50, 司会: 高橋美由紀(立正大学))

長岡 篤(麗澤大学): 前近代における在郷町郡山を中心とした人口移動の空間的広がりとその要因

昼休み(11:50-12:50)

村山プロジェクトの趣旨説明(12:50-13:00)村山 聡(香川大学)

第3報告(13:00-13:50, 司会: 村山 聡(香川大学))

青木高明(香川大学): 実地形空間における都市・道路網のパターン形成

第4報告(13:50-14:40, 司会: 山本千映(大阪大学))

藤原直哉(東京大学): 人の流動データによる人口動態解析

第5報告(14:40-15:30, 司会: 堤 研二(大阪大学))

浅田晴久(奈良女子大学): インド・アッサム州の生態環境と多民族社会の人口分布

特別講演(15:50-16:50, 司会: 中澤 港)

蔣 宏偉(総合地球環境学研究所): 集落の住居分布とマラリア感染リスクの分析

閉会の挨拶(16:50-17:00)川口 洋

1. 次期役員選挙について

石井総務委員長より資料に沿って説明があった。選挙管理委員として佐藤龍三郎会員、別府志海会員、中村真理子会員が会長から指名されたことが説明され、これについて理事会として承認がされた。委員候補の事前の互選により、佐藤龍三郎会員を選挙管理委員長とすることが報告された。

2. 第70回大会について

和田大会企画委員長、及び影山大会運営委員長より資料に沿って説明があり、全会一致で了承された。

3. 『人口学研究』の編集状況について

林編集委員長より資料に沿って説明があった。また、学会誌掲載論文の参考文献情報のhtml化、及びオンライン上での早期公開について行うことが決定された。

4. 研究企画委員会活動報告

石井研究企画委員長より、『「将来人口推計の科学性について」報告書』を作成し2017年10月16日に学会ホームページ上で公開した旨、報告があった。

5. 関西地域部会からの報告

川口関西地域部会長から資料に沿って説明があった。合わせて、水落中部地域部会長、原東日本地域部会長より口頭にて今後の地域部会の予定について報告があった。

6. その他

日本学術会議による人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(GEAHSS)について金子会長より報告があった。また、同連絡会に対して永瀬理事を人口学会から派遣したい旨、提案があり、了承された。

学会賞、トラベルgrant等について今後検討していきたい旨、会長より提案があり、今後、総務委員会で検討して行く旨、了承された。

◆総務委員会の活動報告

総務委員長 石井 太

平成29年10月14日に国立社会保障・人口問題研究所にて第二回理事会が開催されたところ、概要は以下の通り。

◆その他

人文社会科学系学協会男女共同参画 推進連絡会GEAHSSへの参加について

人口学会理事 永瀬 伸子

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会GEAHSSへの参加について

GEAHSSについて以下第23期日本学術会議のお誘いからの抜粋です。

ここ数年間、日本学術会議との連携のもとで準備してまいりました「人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会」Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences(GEAHSS略称ギース)が、2017年5月21日、正式に発足のはこびとなりました。すでに2002年に「男女共同参画学協会連絡会」を発足させた自然科学系の分野におきましては、参加学協会の数は90を超え、若手・女性研究者の実態調査の実施や年に一回のシンポジウムなど活発に活動を行っております。加えて、この学協会連絡会は、政府に対しまして自然科学系分野でのジェンダー平等に関する改革要請を積極的に行い、それが男女共同参画基本計画(現在は第4次)や科学技術基本計画(現在は第5次)などの基本的な施策に反映するなどのめざましい成果を上げております。

GEAHSSにおきましても、今後、参加学協会との議論を通じて、人文社会科学分野での若手・女性研究者支援やそれによるジェンダー平等の促進のみならず、研究分野を超えた学際的な連携のもとで、人文社会系の学術の更なる発展を目指していこうと考えております。

GEAHSSでは、

1. 学協会におけるジェンダー平等に関するグッド・プラクティス(好事例)

の調査・公表

2. 学協会におけるジェンダー統計に関する調査・公表・分析

3. シンポジウム・ワークショップなどの開催

を行ってまいります。

すでに学会としてご参加の確認をいただいている学会は以下の通りです。日本哲学会、日本西洋古典学会、日本教育学会、日本人口学会、日本経済学会・・・(日本学術会議 副会長 井野瀬 久美恵、日本学術会議第一部部長 杉田 敦 日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会委員長 後藤弘子 参加のお誘いよりの抜粋)

GEAHSS発足式(2017年5月22日、於一橋大学)に金子隆一会長がご参加くださり、はじめに参加表明をした四学会の1つとなりました。学会員の永瀬伸子が第24期日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会委員長をしており、学会や研究者の大規模調査も予定しています。今後ともどうぞよろしくご支援ご参加をお願いします。(永瀬伸子)

日本人口学会 会報 第74号 2011年6月発行 編集発行責任：日本人口学会2016～2017 年度総務委員会

日本人口学会事務局連絡先：

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4F一般社団法人学会支援機構内

TEL: 03-5981-6011 FAX: 03-5981-6012

E-mail: paoj@asas-mail.jp

<http://www.soc.nii.ac.jp/paj/index.html>